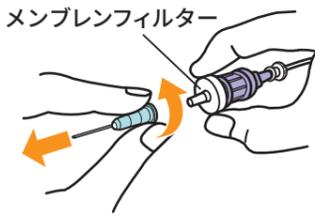


5. 注射針の交換

※注射針 (NN-2116R-12/ 縦穴式 12 本入) をご注文ください。

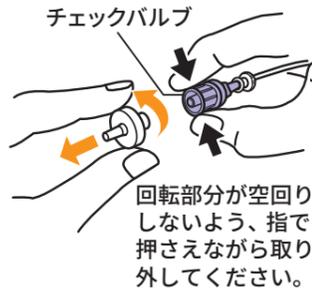
1. 注射針をメンブレンフィルターから取り外します。
交換済みの注射針は、自治体の指示に従って廃棄してください。
2. 新品の注射針を取り付けます。



6. メンブレンフィルターの交換

※メンブレンフィルター (5ヶ入 / 型式: RO-MF) をご注文ください。

1. 注射針をメンブレンフィルターから取り外します。
2. メンブレンフィルターをチェックバルブから取り外します。
3. 新品のメンブレンフィルターを取り付けます。
4. 注射針を取り付けます。



7. チェックバルブの交換

※チェックバルブ (3ヶ入 / 型式: RO-CV) をご注文ください。

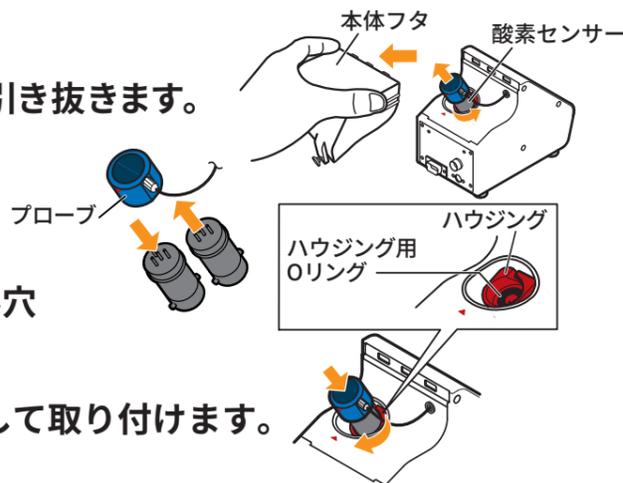
1. メンブレンフィルターと注射針を、チェックバルブから取り外します。
2. フィッティング付サンプリングチューブから、チェックバルブを取り外します。
3. 新品のチェックバルブをフィッティング付サンプリングチューブに取り付けます。
4. メンブレンフィルターと注射針を取り付けます。



8. 酸素センサーの交換

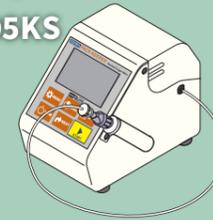
※酸素センサー (ワグニット® / 型式: WA-SGF2) をご注文ください。

1. 本体フタを取り外します。
2. センサーを反時計回りに回し、まっすぐ引き抜きます。
3. プロブからセンサーを引き抜きます。
このとき、ハウジング用 Oリングが溝に合わせてしっかり装着されていることを確認してください。
4. 新品のセンサーを、プロブの差し込み穴に合わせて差し込みます。
5. センサーをハウジングに時計回りに回して取り付けます。
6. 本体フタを取り付けます。



残存酸素計 パックキーパー/パックマスター®

型式: RO-105KS

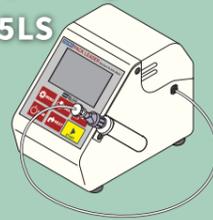


型式: RO-105S



残存酸素/二酸化炭素計 パックリーダー

型式: RO-105LS



簡易取扱説明書

<ご注意> この説明書は簡易版として作成してあります。操作の詳細、注意事項については製品付属の取扱説明書をご参照ください。

<取扱・メンテナンス情報> 弊社HPに製品の取扱方法やメンテナンス情報、動画などを掲載しています。



1. スパン校正 (O₂)

- ・ 1日1回、最初の測定前にスパン校正を行ってください。(測定の都度行う必要はありません)
- ・ 空調設備稼働する前の朝一番の室内など、酸素センサーと温度センサーの温度が十分に安定している状態での校正が理想的です。

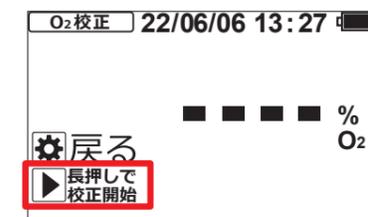
1. 注射針を大気中に出します。



2. **MENU** を押します。
メニュー画面が表示されます。

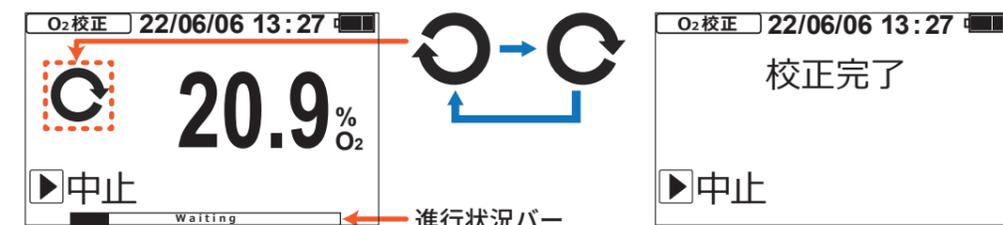


3. **START** を押します。
O₂校正画面が表示されます。



4. **START** を 1 秒以上長押しします。

校正を開始し、安定判断中画面になります。
「校正完了」を表示し、測定画面に戻ったら校正完了です。



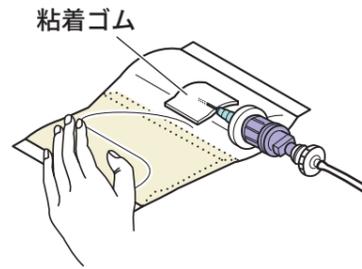
校正値は電源"OFF"したり、電池・ACアダプターを外しても保持されます。
エラーメッセージが出た場合は、製品付属の取扱説明書の「エラーメッセージ」を参照してください。

2. 測定

※パックリーダー (RO-105LS) のみ、O₂濃度とCO₂濃度を同時に測定・表示します。

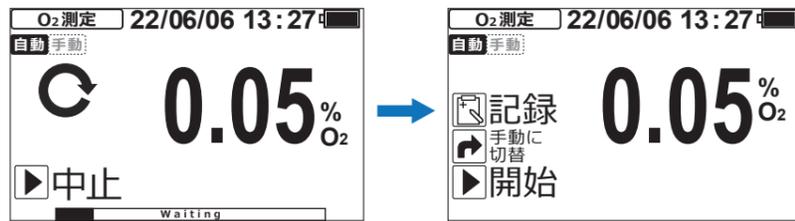
1. 測定物に付属の粘着ゴムを貼り、注射針を刺します。

内容物を吸引しないでください。
粉末などが注射針に詰まると測定誤差が生じます。
ただし微量の液体は、メンブレンフィルターで遮断されます。



2. **START** を押します。

安定した測定値が表示されたら測定完了です。



3. 測定値の記録

※パックリーダー (RO-105LS) のみ、O₂濃度とCO₂濃度の両方を記録できます。

メモリー機能

測定完了画面で **MEMO** を押します。

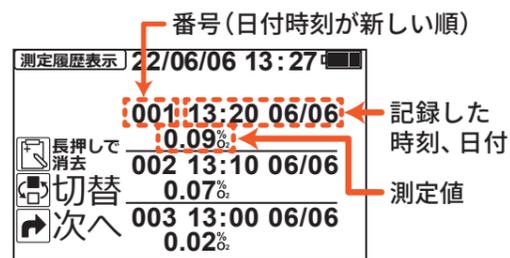
自動安定判断した測定値が内部メモリーに記録されます。



測定履歴の確認

測定待機画面の状態で、**SEL** を押します。

測定履歴画面に切り替わります。



- **NEXT** を押すと、3件ずつ古い記録を表示します。
- 誤って記録してしまった場合など、記録を消去したい場合は、測定履歴画面で、**MEMO** を1秒以上長押しします。最新の記録内容が1件、内部メモリーから消去されます。

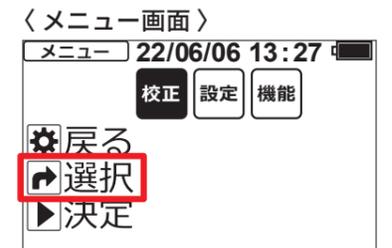
4. 詰まりチェック

値がふらついて安定しない場合や「負圧検知」のエラーメッセージが出た場合は、針やチューブなどの詰まりが考えられますので、下記手順で詰まりチェックを実施してください。

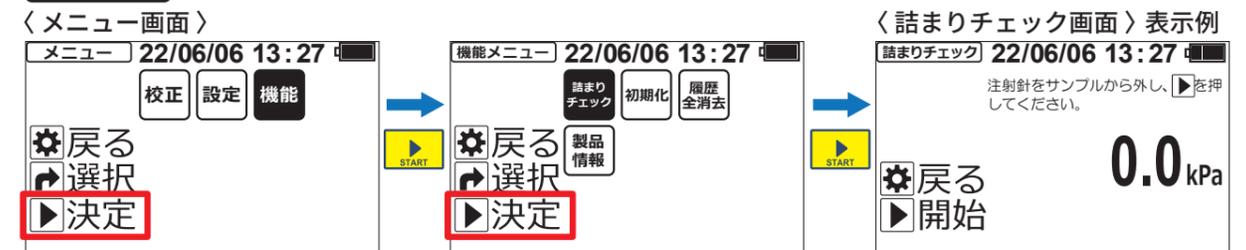
詰まりチェックは、ガス経路内に組み込まれた圧力センサーによりガス圧を表示します。
ガス経路の部品ごとに詰まりの有無を判断できます。

判断の目安となるガス圧	
詰まりがある場合	-40kPaくらい
詰まりがない場合	0 ~ -5kPa

1. 測定待機画面の状態で、**MENU** を押します。



2. **NEXT** を2回、**START** を2回押します。



3. 針先をサンプルから外します。

大気を吸引できる状態にします。

4. **START** を押します。

5秒間ポンプが動作して詰まりチェックを開始し、結果を表示します。

針をつけていると負圧を表示

針を外すと負圧が解消

針に詰まりがあることを判断できます。
部品を新品に交換してください。(別頁5.~7.参照)

ガス経路に詰まりはないことを判断できます。
詰まりはなく、サンプルが-40kPaよりも負圧、またはその他の要因があることを判断できます。
→製品付属の取扱説明書の「トラブルシューティング」「エラーメッセージ」を参照してください。

「配管は正常」の表示